

データ連携基盤と次世代モビリティを活用した“救急”as a Service【QaaS】 ～空飛ぶクルマも見据えた新たな救急搬送体制づくり～

延岡・県北の課題

- ◆ 救急現場への到着時間や救急先病院への搬送時間の短縮化が課題。
- ◆ 延岡市を含む県北地域はドクターヘリの「片道15分圏」の外。(助からないケースが多い)

今回のプロジェクトで装備するシステム

- 1. 個人の健康データを入力するアプリ** 【個人が使用するアプリ/スマホにアプリをダウンロード】
個人が日々の健康記録や診療情報などを入力し管理するアプリの実装
- 2. 救急搬送時のトリアージ(治療優先順位)を最適化するシステム** 【救急車等で使用するシステム/タブレット端末】
救急搬送時の最適なトリアージのためのシステムの実装
 - ① 脳卒中や心疾患の発症可能性や重症度などを判定するシステムの実装
 - ② 除細動器(12誘導心電図電送機能等)からのバイタルデータを病院等に送るシステムの実装
 - ③ **1のアプリ**と連携し、患者の健康データを取得し、危険度を判断するシステムの実装
- 3. 救急搬送時の医療情報を病院と共有するシステム** 【救急車・搬送先病院等で使用するシステム/タブレット端末】
2のシステムと連携し、救急搬送時に救急車、搬送先病院、消防指令センター等の間で、患者の症状に関する画像も含めた情報を共有し初動対応に活かすシステムの実装
※ 上記1～3を救急隊員や搬送先病院で活用



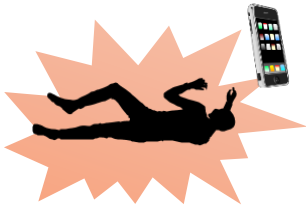
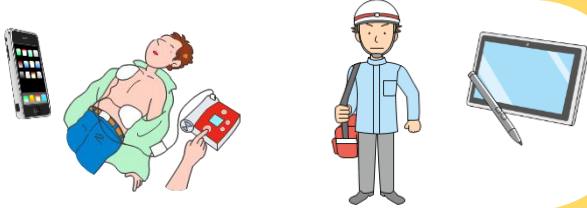
- 4. 救急搬送の最適な運行管理を行うシステム (「空飛ぶクルマ」を「空飛ぶ救急車」的に活用)**
空飛ぶクルマの実装も見据え、救急モビリティ(救急車・ドクターカー)の選定・運行管理・搬送経路の設定を支援するシステムの実装
空飛ぶクルマの実装も見据え、救急車・ドクターカー等とのランデブーポイントや離着陸場所の選定等を行うシステムの構築。

目指す姿

搬送時間の短縮・迅速な受入・スピーディーかつ適切な医療処置により、
市民の救命率を向上させ、**助かる命を大幅に増やす!**

“救急”as a Service 運用イメージ図

- ②患者の診療情報等の取得・分析
- ②最適なトリアージの実施
(最適な医療処置・搬送先選定等)



①健康・診療データの入力管理

救急車・ドクターカー

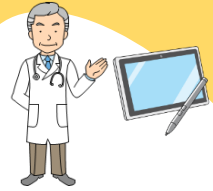
迅速・的確な医療処置

搬送時間短縮

最適な搬送経路



搬送先病院



③医療情報の共有
・適切な医療処置

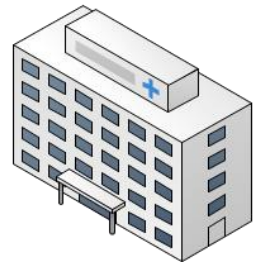


空飛ぶクルマ

または



ドクターヘリ



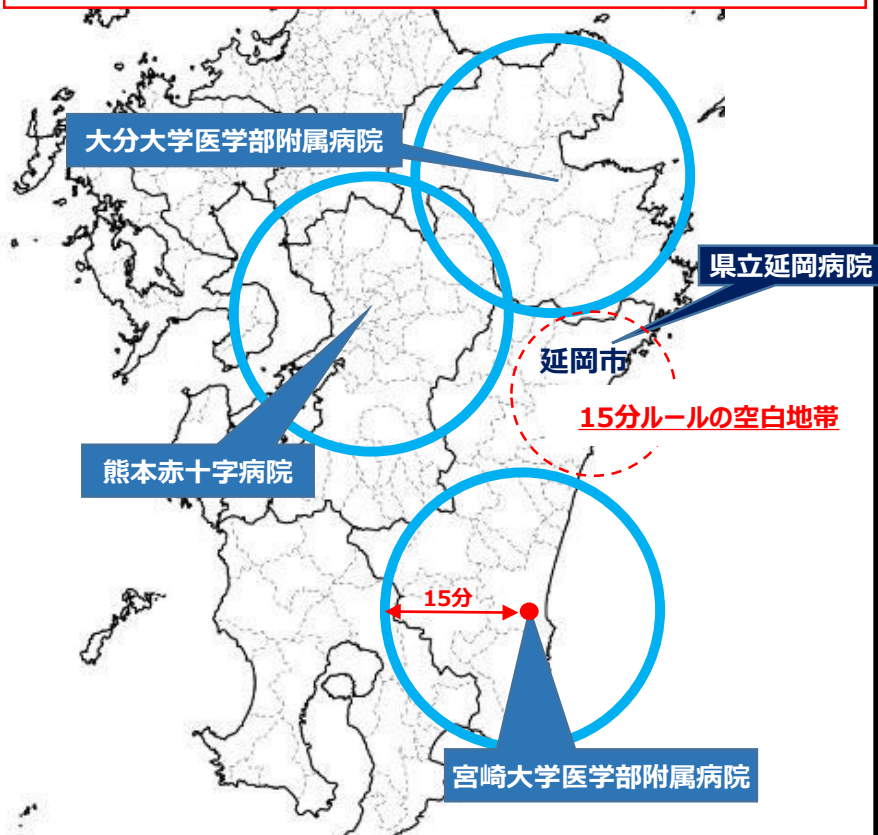
大学病院等

④救急搬送の運行管理
(救急車・ドクターカー・空飛ぶクルマ・ドクターヘリの最適な選択)

参考

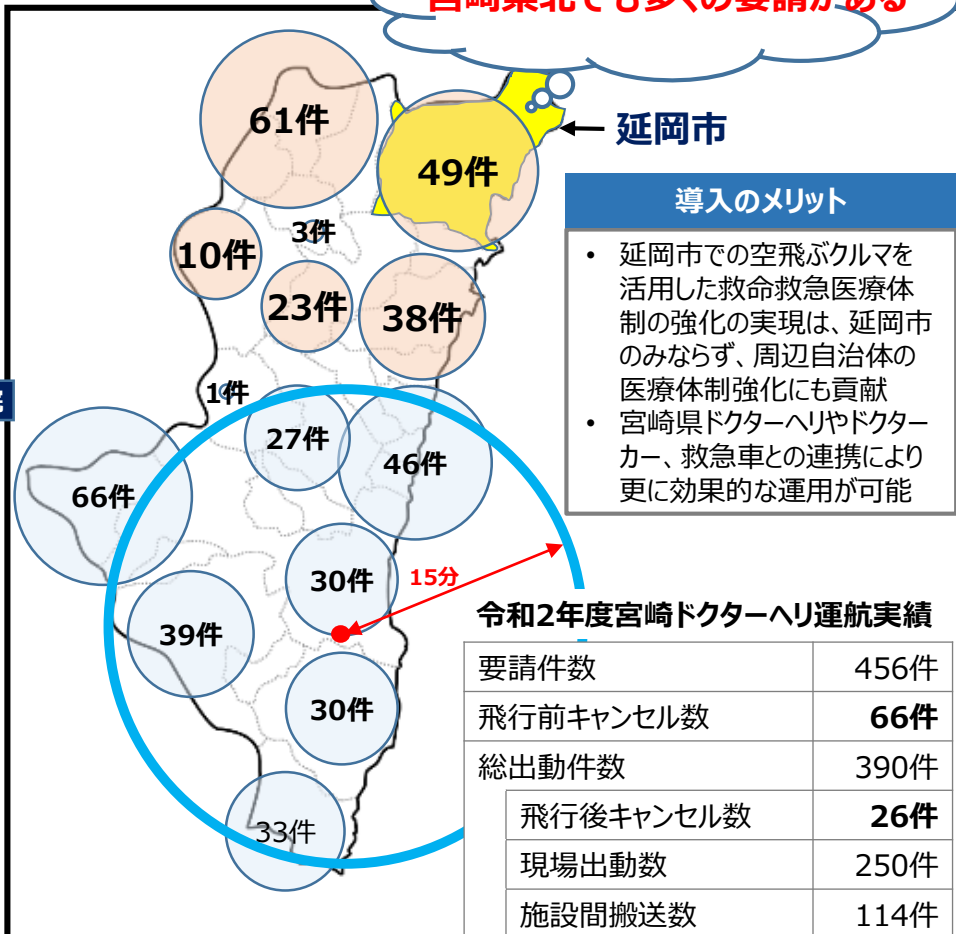
延岡市の救命救急医療への対応力強化 ～空飛ぶクルマサービスの導入が急務～

出動要請から15分以内に医師による治療開始を目標とするドクターヘリの運用(「15分ルール」)において、延岡市及び宮崎県北部地域は、宮崎市の基地病院から15分圏内に含まれておらず、救命救急医療の対応力強化が課題



○ 各県のドクターヘリが約15分で到着可能な範囲 (基地病院から55km圏のイメージ図)

宮崎県北でも多くの要請がある



宮崎市からの出動は、悪天候や日没までの運行時間が理由で対応できないケースがある。空飛ぶクルマで延岡から出動できれば、延岡を中心とした県北部における救命救急が飛躍的に拡充される